

第5回 定住自立圏構想の推進に関する懇談会 議事要旨

【開催日時等】

- 開催日時：平成22年2月12日（金）14：00～16：00
 - 場 所：総務省8階 第1特別会議室
 - 出席者：渡辺副大臣、佐々木座長、大西委員、小田切委員、梶井委員、田中委員、辻委員、牧野委員、吉村委員（農林水産省農村振興局長）、塚本委員（経済産業省地域経済産業審議官）、増田委員（国土交通省総合政策局長）、岡本事務次官、椎川地域力創造審議官、久元自治行政局長、原政策統括官
- 説明者：小林八戸市長、坪井文部科学省大臣官房政策課長
事務局：原地域自立応援課長

【議題】

- (1) 資料説明
- (2) 意見交換
- (3) その他

【配付資料】

- 資料1 定住自立圏構想の進捗状況について
- 資料2 八戸圏域定住自立圏の形成に向けて（八戸市長提出資料）
- 資料3 南信州定住自立圏共生ビジョン（牧野委員提出資料）
- 資料4 定住自立圏構想の推進に向けた総務省の取組について
- 資料5 定住自立圏の構想に向けた関係各省の支援策（検討中）
- 参考資料1 各団体の協定又は方針の概要
- 参考資料2 人材力の活性化と交流・ネットワーク

【資料説明】

- 事務局、小林八戸市長、牧野委員及び関係各省より、配布資料に基づき説明。

【意見交換（概要）】

- 定住自立圏構想を具体的な形にする必要がある。新政権は、「地域主権国家」形成に向け取り組んでいく。制度的な見直しを含め、委員の皆様からの積極的な提案をお願いしたい。
- 定住自立圏の形態がいいのか、市町村合併がいいのかは地域が選ぶことであるが、定住自立圏のメリットとして、市町村間でのサービス提供の合理化・効率化、市町村間での雇用の確保と少子化対策があると思う。

- 圏域形態について、県境型や圏域の重複型等が増え、多様性が出てきたことはよいことである。
- 定住自立圏構想の推進にあたり、都道府県の役割をどのように考えるのか。また、これだけ事例が蓄積されてきたので、中心市の外形基準を見直してもよいのではないか。
- 事務の効率化はこれまでも圏域の市町村で取り組んできたが、定住自立圏構想の推進のため圏域の市町村と一緒に協力することによってドクターカーの運用や防災情報の共有等、プラスの面が出てくる。
- これから経済圏・生活圏を一にする圏域で産業振興を行うことは非常に重要である。定住自立圏の中で産業を振興し、圏域内で経済を回す仕組みを作っていく必要がある。
- 中心市宣言を行った市が42市まで増えてきたが、定住自立圏の制度が周知されるにつれて、中心市要件についていろいろな意見が出始めてきた。今後、意見を集約した上でご議論いただき、その後のことを検討したい。
- 定住自立圏は中心市だけでなく、周辺市町村も地域を支えている。周辺市町村も定住自立圏に参加した思いなどを発信し、伝えていくことが定住自立圏の価値向上に繋がっていく。
- 定住自立圏の将来像は多様である。定住自立圏構想の取組の実態を見ながら、多くの方に定住自立圏構想を伝えるような推進事業にも力を入れていただきたい。
- 地方公共団体は、国土交通省の総合交付金をはじめ、施策の立案、スケジュール等の情報を必要としている。適宜情報の提供をお願いしたい。
- 定住自立圏に参画する首長や行政の職員は、定住自立圏構想について十分理解していると思われるが、住民の理解と参画がないとなかなかうまくいかないと思う。
- 定住自立圏構想の各種取組の分析が必要であると思う。